

トンガ王国における施設に通うことのできない障害児・者を対象とした歯科医療ボランティア活動

○ 遠藤真美^{1,2,3)}・竹内麗理^{3,4)}・河村康二^{3,5)}・河村サユリ^{3,5)}・田口千恵子^{3,6)}・小林清吾^{3,6)}・柿木保明¹⁾

¹⁾ 九州歯科大学学生体機能2 講座摂食機能リハビリテーション学分野

²⁾ 南太平洋医療隊

³⁾ 日本大学松戸歯学部口腔分子薬理学講座

⁴⁾ カワムラ歯科医院

⁵⁾ 日本大学松戸歯学部公衆予防歯科講座

⁶⁾ 日本大学

【緒言】

南太平洋医療隊はトンガ王国（トンガ）においてヘルスプロモーションの考え方を軸に現地の歯科スタッフと協力をしながら歯科保健医療ボランティア活動を実施している。2005 年から障害児・者施設に対する活動を開始した。2012 年には施設に通えていない障害児・者に対する活動を行い、歯科保健行動について調査も行ったので報告する。

【方法】

対象はトンガ本島の障害者施設職員が把握する施設に通えていない障害児・者 9 人とした。活動は、対象者の生活する場に障害者施設職員および現地歯科スタッフと共に訪問し、歯科健診、歯科保健指導、物品寄付、健康相談および歯科保健行動および本活動などに関する質問票調査を実施した。

【結果】

年齢は 9 歳 2 人、20 代以上 7 人であった。全員が脳性マヒで、20 代以上は寝たきりであった。歯磨き回数は磨かない 2 人、1 日 1 回 3 人、週 1～2 回 4 人であった。使用道具として、7 人が歯ブラシと歯磨剤、2 人がタオルのみで、全員に道具購入経験はなかった。シャワー回数はなし 1 人、週 1 回 5 人、週 4 回 1 人、毎日 2 人であった。本活動を全員が良いとし、『活動を継続して欲しい』という意見を認めた。国立病院歯科受診に関して 7 人が受診経験なく、その理由として痛みなし 1 人、通院手段なし 3 人、余裕なし 1 人であった。

【考察】

トンガの障害者施設における歯科保健活動は本隊中心型から現地スタッフとの協力型・自立型へと移行中であるが、生活範囲の限定された施設に通えない児・者について把握ができていなかった。現地スタッフと生活の場に訪問し、日常生活を知ることによって現地歯科スタッフ、障害者施設スタッフ、本隊の 3 者が共に問題点を抽出でき、今後の活動拡大の糸口となった。訪問時に現地スタッフが本隊との継続した協力を説明することで対象者と家族が歓迎をしてくれた。活動の継続による現地スタッフとの信頼関係が本活動を可能にしたと考えられた。